

学校番号44 「湯沢翔北高等学校 中期ビジョン（5か年計画）」

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

【1】学校の現状や課題

本校は、普通科、総合ビジネス科、工業技術科の3学科と、即戦力として社会で活躍できる「介護とものづくり」のエキスパートを養成する専攻科(介護福祉科及び生産技術科、ともに2年課程)を有する県内で唯一の高校である。校訓「誠心 創意 自立」のもと、「創造力や実践力のあるたくましい生徒の育成」を基本理念として掲げている。

本校においては、生徒一人ひとりの特性や進路希望が多様であることや、学科構成の特徴から様々な場面で個に応じた指導が必要不可欠である。生徒の進路希望に対応させた学科、コースの充実を図り、教育課程の検討や改善に努め、特色ある学校づくりを推進する必要がある。

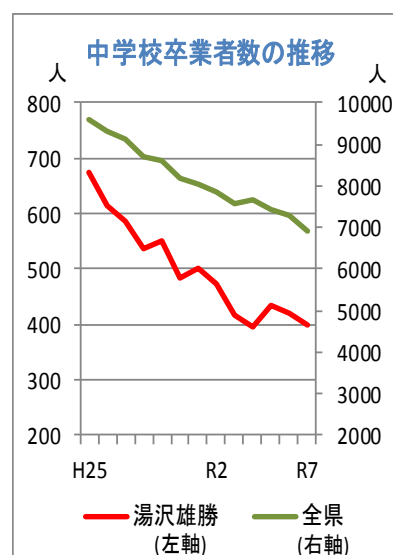
また、自らの進路や将来を主体的に選択・決定できる生徒を育成するため、キャリア教育の視点に立って、社会的・職業的自立につながる授業や教育活動を実践していく必要がある。将来、社会や地域に貢献する意識を高めるため、地元の機関や企業との連携をより効果的で有意義なものにしていくことが求められる。

【2】学校を取り巻く将来の状況の予測

湯沢雄勝地区における中学校卒業生数(①)と地区内の高校への入学者数(②)は、令和2年度は①459人②425人、令和7年度は①400人②362人と予測されている。

このように少子化がすすんでいる状況の中で、本校は平成30年度入学生から普通科が1クラス減となり、令和2年度からはすべての学年が5クラスとなった。また、同年、雄勝高校が本校の地域校として新たなスタートを切った。

今後は、地区内唯一の専門学科を持ち、専攻科を併置する高校であることを踏まえた教育活動の一層の充実を図っていくとともに、雄勝校と連携して地域に根ざした教育活動を進めていく。



【3】目指す生徒像や学校像

本校の教育方針は次の4つである。

- 1 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、責任と協調を重んじ、礼儀正しく他を思いやる心を育み、意欲的に社会貢献できる人間を育てる。
- 2 基礎・基本の指導を徹底し、自ら学び自ら考える主体的な学習態度を養い、学力の向上を図る。
- 3 体験的学習を通して一人一人の豊かな個性や能力を伸ばし、将来の社会的・職業的自立を目指した進路実現を図る。
- 4 商業、工業の教育の特色を生かし、地域との連携を図ることによって企業実習を導入するなど実践的な教育を行い、望ましい職業観・勤労観を育成する。

「地域に根ざした活力ある学校づくり」に重点を置きながら、生徒の個性や進路希望に応じたきめ細かい教育活動を展開し、人間性の向上を図り、「多様な進路希望の実現」と「地域社会に貢献できる人材の育成」を目指す。

【4】5年間を通しての具体的目標（本校が目指す5年後の姿）

○「多様な進路希望の実現」のために

- 1 シチズンシップを育てる探究活動（翔大夢2.0）とキャリア教育の充実
 - （1）全学科で探究活動（翔大夢）を展開し、地域課題の解決や地域活性化に関する課題研究を全員が推進
 - （2）望ましい勤労観・職業観を育成するための外部講師による講話・実習の実施
 - （3）主体性を育てる主権者教育の充実
- 2 意欲に満ちた主体的進路選択の実現
 - （1）普通科
国公立大学の合格率50%以上、私大・短大・専修学校の合格率100%
難関大学を目指す生徒の育成
 - （2）総合ビジネス科・工業技術科
進学希望者の50%以上が四年制大学を受験
国公立大学を目指す意識の涵養
 - （3）就職内定率100%、卒業後3年内離職率0%、就職希望者の県内定着率向上
- 3 高度で価値ある資格や検定への挑戦（合格者数）
 - （1）総合ビジネス科：日商簿記2級15名、日商リテールマーケティング（販売士）2級10名、ITパスポート10名
 - （2）工業技術科：技能検定3級以上（機械加工旋盤、機械検査、機械保全、電子機器組立て、シーケンス制御）25名
第2種電気工事士20名 パソコン利用技術検定2級30名

○「地域社会に貢献する人材の育成」のために

- 1 地域のにぎわい創出への貢献
- 2 地域密着型のボランティア活動
- 3 地域の課題解決に向けた学習成果の還元
- 4 生涯学習の場の提供

具体的な取組等

○「多様な進路希望実現」のために

- 1 シチズンシップを育てるキャリア教育の実践
 - （1）主体的・対話的で深い学びを目指す授業改善
 - （2）異年齢や多様な立場の人々と関わる場の設定
 - （3）地元企業との連携事業の推進
- 2 意欲に満ちた主体的進路選択の実現
 - （1）個に応じた指導と家庭学習への支援の充実
 - （2）地域校と共に学ぶ機会の設定
 - （3）情報提供とガイダンスの充実
 - （4）総合型選抜・学校推薦型選抜等の積極的な活用
 - （5）補習の計画的活用
- 3 高度で価値ある資格や検定への挑戦
 - （1）「学校設定科目」の柔軟な活用
 - （2）校外における活動や資格取得による単位認定
 - （3）専攻科生産技術科と連携した高度な技能の習得

○「地域社会に貢献する人材の育成」のために

- 1 地域のにぎわい創出への貢献
 - (1) うどんエキスポや犬っこまつりへの参加と地域の課題解決や更なる発展のための提案
 - (2) 地元企業や農家等と連携した商品の開発と販売（ミツチェリー販売促進、”秋姫”等地元特産物の商品化）
- 2 地域密着型のボランティア活動
 - (1) 高齢者介護施設や特別支援学校との交流
 - (2) 工業の技術を生かしたボランティア活動（車椅子リサイクリング、修理ボランティア等）
- 3 地域の課題解決に向けた学習成果の還元
 - (1) 他校種との連携（小中学校プログラミング講座、ロボット製作講座等）
 - (2) 課題研究における地域の課題解決のテーマ設定や地場産業・特産物に関連した授業の実践（自然エネルギー、特産品、福祉社会等）
 - (3) 学科連携による地元商店街での短期チャレンジショップやネットショップの开店
 - (4) 地元企業との連携によるものづくりや大会参加（ミニ絵どうろう、宇宙エレベーターロボット競技東北大会、ドローン競技大会等）
- 4 生涯学習の場の提供
 - (1) 生徒が身に付けた知識・技能を生かした市民公開講座等の実施
 - (2) 専攻科施設・設備の活用による地域産業への貢献（地域における技術研修センター的機能）



本校が目指す5年後の姿

